

令和3年度

第3回池田市地域公共交通会議

会 議 録

日 時	令和4年2月8日(火)
	13時00分～14時30分
会 場	池田市中央公民館2階会議室A・B

令和3年度 第3回池田市地域公共交通会議議題

議題

(1) 協議事項

池田市地域公共交通計画（案）について

以上

委員数 18名

うち出席委員 17名 代理出席1名・随行者1名を含む

※ 池田市地域公共交通会議設置条例第6条により、本会議は成立

会長 新田保次 委員

石塚裕子 委員

東口武生 委員

河原正明 委員

中西克之 委員

渡部恭三 委員

随行者 牧野正尚 委員

奥野雅弘 委員

野津俊明 委員

代理 黒田唯雄 委員

足立 壽 委員

堀内隆彦 委員

松山洋三 委員

板谷 実 委員

藤井貴悦 委員

水越英樹 委員

西村俊二 委員

事 務 局

都市整備部	次長	夏 木 敏 宏
都市整備部交通道路	課長	村 島 清 太
都市整備部交通道路課	副主幹	田 村 哲 也
都市整備部交通道路課	主事	徳 永 明香理

オリエンタルコンサルタンツ技術主査	八 木 彰 一
オリエンタルコンサルタンツ技師	神 吉 晃 大

傍 聴 者        0名

## 令和3年度 第3回 地域公共交通会議 議事録

開催日時：令和4年2月8日（火）13：00～14：30  
 開催場所：池田市池田中央公民館 2階会議室（A・B）  
 出席者：

備考	所 属	氏 名	出欠
会長	大阪大学	新 田 保 次	出席
副会長	大阪大学 人間科学研究科 付属未来共創センター	石 塚 裕 子	出席
委員	国土交通省 大阪国道事務所 地域調整課	東 口 武 生	出席
	近畿運輸局 大阪運輸支局	河 原 正 明	出席
	近畿運輸局 大阪運輸支局	中 西 克 之	出席
	大阪府 池田土木事務所	渡 部 恭 三	出席
		牧 野 正 尚	出席 (随 行)
	池田警察署 交通課	寺 岡 幸 彦	欠席
	阪急電鉄株式会社 交通プロジェクト推進部	奥 野 雅 弘	出席
	阪急バス株式会社 自動車事業部	野 津 俊 明	出席
	一般社団法人 大阪タクシー協会	黒 田 唯 雄	出席 (代 理)
	阪急タクシー株式会社	足 立 壽	出席
	阪急タクシー労働組合	堀 内 隆 彦	出席
	池田市友愛クラブ連合会	松 山 洋 三	出席
	池田市社会福祉協議会	板 谷 実	出席
	池田市身体障害者福祉会	藤 井 貴 悦	出席
	池田市総合政策部	水 越 英 樹	出席
	池田市福祉部	綿 谷 憲 司	欠席
池田市都市整備部	西 村 俊 二	出席	
事務局等	都市整備部 次長 都市整備部 交通道路 課長 都市整備部 交通道路課 副主幹 都市整備部 交通道路課 主事 オリエンタルコンサルタンツ技術主査 オリエンタルコンサルタンツ技師	夏 木 敏 宏 村 島 清 太 田 村 哲 也 徳 永 明 香 人 本 理 一 神 言 彰 一 神 言 晃 大	出席

討論内容

1. 池田市地域公共交通計画（案）について	
委員	<p>課題として外出を諦めている層が存在していることが挙げられており、その中に子育て世代も含まれている。外出を諦めている子育て世代に対する施策はどこに盛り込まれているか。</p> <p>また、アンケート結果から、特に高齢者の公共交通維持に対する意識が低いことを踏まえると、高齢者の意識醸成に係る施策についての記載が弱い印象を受ける。</p>
事務局	<p>子育て世代の外出支援は、現行の施設循環福祉バスで妊産婦も対象としており、施設循環福祉バスの見直しの中で引き続き支援できる形を検討する。</p> <p>高齢者の意識醸成については、HP や広報のほか、スマホ教室などの場を活用し、公共交通の現状や維持に係る厳しい状況に関して情報発信を行っていく。</p>
委員	<p>現在の計画書では、そのような意図が読み取れないため、もう少し丁寧に記述すれば市民にも理解いただけるのではないかと。</p>
事務局	<p>ご指摘を踏まえて対応を検討する。</p>
委員	<p>自家用車での市外流出への対策として、交通の視点に加え、中心市街地の活性化等のまちづくりの視点からも対策を検討することが必要だと考える。</p>
事務局	<p>まちづくりとの連携も考慮しているような対応を検討する。</p>
委員	<p>「阪急沿線アプリ」はまだ完成形ではないため、それが伝わる記載に変更いただきたい。</p> <p>また、MaaS は広域に関わる施策であるため、池田市や阪急グループだけでできるものではなく、他の事業者や周辺自治体も含めた様々な主体が連携して取り組む必要があると考える。万博に向けて関西 MaaS も検討されているので、そのような動きを見ながら取り組むことが望ましい。</p>
事務局	<p>了解した。</p>
委員	<p>施設循環福祉バスと路線バスが一部区間で競合している中で、アンケート結果では「他に使える交通手段があるが無料なので利用している」と回答した方が 25% おり、事業者の立場からすれば、無料での運行について見直していただきたい。</p> <p>移動に限らずサービスを受ける場合は受益者負担が原則であり、運賃負担を軽減すべき方に限定して、運賃助成や免許返納者への助成制度を行うといった形で検討いただきたい。</p> <p>また、施設循環福祉バスの代替交通として AI オンデマンド交通など様々な手段を検討しているが、導入による効果などが分かるイメージがあれば、市民にとっても分かりやすいのではないかと。</p>
事務局	<p>施設循環福祉バスは福祉機能と交通機能を併せ持つので、整理を進めていく中で料金についても検討する。</p>
委員	<p>デマンド交通は他都市でも取り組んでいるので、検討していく中では連携なども含めて相談させていただきたい。</p>

事務局 :	その際にはご相談させて頂くので、よろしくお願ひしたい。
委員 :	現在策定中の第7次総合計画の中で“市民主体のまちづくり”が掲げられている。しかし、地域公共交通計画の中では市民が主体的に関わるような内容が少ないと感じた。
事務局 :	市民参画に係る観点がもう少しわかるよう修正を検討する。
委員 :	バス利用者がバス停以外の場所でも乗降できる運行方法は、将来的に考えることは可能か。
委員 :	地方ではフリー乗降が実施されている地域もあるが、交通安全の観点から池田市のような都市部では難しい。
新田会長 :	デマンド交通などの新たな交通の導入検討の中で、バス停間隔を短くする等利用しやすい方法を検討いただきたい。
事務局 :	施設循環福祉バスを見直していく中で検討したい。
委員 :	鉄道利用者の目標値について、15年後にコロナ禍前の利用者数とすることを掲げているが、人口動態の影響もあるため、この目標値を達成するのは厳しいのではないか。
事務局 :	目標値の考え方としては、将来的な人口減少も想定しているが、今後立地適正化計画なども踏まえて拠点への集積や誘導を図っていくという観点から、拠点における利用者数は現状の水準を維持していく必要があると考えている。ただし、5年ごとに計画を見直すこととしており、そのタイミングで議論しながら、必要に応じて見直していきたい。
委員 :	バスの種類（低床、高床）など、取り組んでいく方針が決まってくれば、バリアフリーなどについて道路管理者としてできることは協力させてもらう。
新田会長 :	個々の交通手段の改善とともに、新しい交通手段やサービスの実施がこの計画の中で謳われているので、個々の交通事業やサービス提供等は引き続き推進していただきたい。 また、MaaSは個々の交通手段だけでなく、地域施設や団体を繋ぐものにもなる。その連携のあり方についても計画の中でも記載されており、今後は連携の具体化を追求することが必要になると考える。 加えて先程板谷委員から意見があったように、市民が主体となって公共交通を盛り上げていけるように意識向上が図られれば良い。

### 3. 閉会

事務局 :	今回の協議を踏まえ、修正等を行った上で、2月28日（月）から3月21日（月）までパブリックコメントを実施する予定である。パブリックコメントで出てきた意見に対しては、計画に反映する必要があるものについては反映した上で、委員の皆様には書面にて報告し、ご意見を伺うこととする。なお、意見及び修正内容が軽微な場合は、会長専決とする。
-------	--

令和4年2月25日

池田市地域公共交通会議会長 新田 保次